



## セカンドオピニオンについて

総合相談・支援センター

セカンドオピニオンとは、患者さんご自身が納得のいく治療法を選択することができるように、治療の進行状況、次の段階の治療選択などについて、現在診療を受けている担当医とは違う医療機関の医師に「第2の意見」を聞くことをいいます。セカンドオピニオンは、今の担当医と合わないから違う病院へ転院したい、治療を受けたいということでは決してありません。

担当医から説明された診断や治療方針（ファーストオピニオン）について、納得がいかなかったり、理解はしたものの腑に落ちないこともあるかもしれません。そのとき「本当に手術ができないのか」「ほかに手術しないで済む治療法はないのか」「別の治療法はないのか」と思う場合もあるかと思えます。セカンドオピニオンを受けることで、担当医の意見を別の角度からも検討することができますし、もしも同じ診断や治療方針が説明された場合でも、病気に対する理解がより深まることと思えます。また、別の治療法が提案された場合には選択の幅が広がることで、より納得して治療に臨むことができます。

ただし病状や進行度によっては時間的な余裕がなく、なるべく早期に治療を開始した方がよい場合もあるので、担当医に現在の病状と治療の必要性について確認し、セカンドオピニオンを受けても大丈夫か相談することが大事です。

セカンドオピニオンをどこで受けるかわからないときには、各都道府県のがん診療連携拠点病院などには「**がん相談支援センター**」が設置されていますので、そちらに問い合わせるとその地域のセカンドオピニオン外来を行っている病院や、専門領域などの情報を得ることができます。がん相談支援センターのある病院を見つける方法としては「がん情報サービス」のホームページが探しやすいと思えますのでQRコードを下に記します。

どの医療機関でセカンドオピニオンを受けたいか決まったら、その医療機関の受付窓口に連絡して、セカンドオピニオンを受けるために必要な手続き（受診方法、予約、診察時間、必要な書類など）をしっかりと確認しましょう。またセカンドオピニオン外来は、基本的に公的医療保険が適用されない自費診療で行いますので、病院によって費用も様々です。

実際セカンドオピニオンを受ける前にはもう一度担当医の説明内容を確認して、伝えたいこと、聞きたいことを整理し、自分の病気の経過と質問事項をきちんとメモしてから行くと、聞き漏らしを防げますし限られた時間を有効に使えます。



「国立がん研究センターがん情報サービス」